

## 17 眼科研修プログラム

### I 一般目標 (GIO)

眼科における診断と治療に必要な基本知識と技能を習得する。

### II 経験目標 (SBO s) (各項目のは必修項目、)

#### A 経験すべき診察法・検査・手技

##### 1. 基本的な身体診察法

- 1) 頭頸部の診察 (眼瞼・結膜、眼底、外耳道、鼻腔口腔、咽頭の観察、甲状腺の触診を含む) ができ、記載できる。

#### B 経験すべき症状・病態・疾患

##### 1. 頻度の高い症状

- 1) 視力障害、視野狭窄 ※ R
- 2) 結膜の充血 ※ R

##### 2. 経験が求められる疾患・病態

(A)疾患については入院患者を受け持ち、(B)疾患については、外来診療または受け持ち入院患者 (合併症含む) で自ら経験すること

- 1) 屈折異常 (近視、遠視、乱視) ※ (B)
- 2) 角結膜炎 ※ (B)
- 3) 白内障 ※ (B)
- 4) 緑内障 ※ (B)
- 5) 糖尿病、高血圧・動脈硬化による眼底変化

### III 方略 (LS)

1. 研修の場は、眼科外来での診療、手術室での手術である。
2. 研修の指導にあたるのは、受け持ち患者の主治医である。
3. 研修医は主治医の指導のもとで、受け持った患者の診療に直接携わる。

#### A 外来における研修

- (1) 新患については可能な限り予診を担当し、その結果をカルテに記載する。
- (2) 外来担当医に同伴し、必要に応じて診察・カルテの記載を行う。
- (3) 患者の許可が得られれば、外来担当医の監視のもとで、外来検査および治療を自ら行う。

#### B 手術室における研修

- (1) 手術担当医の監視のもとで、手術の準備・介助を行う。
- (2) 顕微鏡のテレビモニターを見ながら、実際の手術手技を学習する。

## 週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土 (第1のみ)
午前	外来研修	外来研修	外来研修	外来研修	外来研修	外来研修
午後	手術	手術	手術	手術	外来研修	

### 指導体制

責任指導医：小林裕幸

上級医：高木智穂、劔持順也、百田綾菜

病棟師長：高橋須磨子

### IV 評価 (EV)

1. 研修医評価票の各項目につき、指導医が評価を行う。
2. 経験すべき症候及び経験すべき疾病・病態について病歴要約で履修状況を確認する。